

# 令和6年度（2024年度） 教育目標と経営方針

## 1 本校教育の基盤

本校の教育は、日本国憲法及び教育基本法に則り、学校教育法・中学校学習指導要領・福岡県教育大綱・福岡県学校教育振興プラン・福岡県教育施策実施計画・小郡市教育大綱・小郡市教育振興基本計画・令和6年度小郡市教育施策実施計等に基づき、子どもの人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた心身ともに健康な人間の育成を期す。

また、保護者や地域の願い及び子どもの心身の成長段階等に即して、知育・徳育・体育・食育の面から、**人権・同和教育の視点を基盤**に据え、調和の取れた教育を推進する。

そのため、教職員一人ひとりが自己研鑽を積み、たゆまぬ努力によって、理想を実現するための充実した教育を行う。

## 2 学校教育目標

『夢と志をもって主体的に学び 心豊かにたくましく生きる生徒の育成』

予測困難な時代であり、国際情勢の混迷や自然災害等により一層先行き不透明となる中、「答えのない問い」にどう立ち向かうのかが問われており、未来を切り拓いていく子どもたちには、目の前の事象から解決すべき課題を見だし、自分ごととして主体的に考え、多様な他者と協働的に議論しながら、納得解や最適解を生み出す能力が一層必要になっている。すなわち、持続可能な社会の創り手である子どもたちには、エンジェンシー〈①学び続ける力 ② 新たな課題に対応できる力 ③協働的に課題解決できる力の3つの力を意味する〉を発揮して、理想の実現に向けて現状をよりよくするために責任感をもって社会に参画していくことが求められている。

また、2030年の社会では、Well-being〈心身ともに健康で、幸せな感情が持続的である状態〉な生活に貢献していくことが教育のあるべき姿として取り上げられており、SDGsの理念「誰ひとり取り残さない」を意識した教育活動を展開しなければならない。

このことを踏まえ、本校の学校教育目標を設定している。

<p>○夢と志をもって主体的に学ぶ</p> <p>※理想を実現しようとする高い志や意欲をもって、主体的に学びに向かう</p> <p>※試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していく</p>	<p>○心豊かに</p> <p>※生命を大切にし、人権を尊重する心</p> <p>※自他のよさを認め合う心</p> <p>※礼儀をわきまえ、他者を思いやる心</p> <p>※様々な人々と協働する心</p>	<p>○たくましく生きる</p> <p>※感性を豊かに働かせながら、意欲的に努力する態度</p> <p>※主体的な学びの定着</p> <p>※粘り強くあきらめない気力と体力</p>
---	--	--

## 3 具体的目標

〔めざす生徒像〕		これからの社会を強く、しなやかに生きていく力をもった生徒						
校訓	<table border="1"> <tr> <td>自</td> <td>創</td> <td>誠</td> </tr> <tr> <td>主</td> <td>造</td> <td>実</td> </tr> </table>	自	創	誠	主	造	実	<p>「自主」⇒自ら考え、正しく判断し、進んで行動する生徒</p> <p>「創造」⇒たくましさや個性を備えた創造的な生徒</p> <p>「誠実」⇒素直で思いやりのある心豊かな生徒</p>
自	創	誠						
主	造	実						
<p>これからの社会を強く、しなやかに生きていく力(資質・能力)をもった生徒をめざす。そのために『校訓』を土台とし、<u>3つの力【自己肯定感】【主体性】【多様性(ダイバーシティ)】</u>を育てたい。</p>								
<p>○【自己肯定感】…ありのままの自分を信頼する、「わたしも大切、あなたも大切」、自分の「強み」を見つける、レジリエンス(逆境や困難に負けない力)</p> <p>○【主体性】…自分の判断でやるべきことを見極める、目標に向かって効果的に行動</p>								

- 動する、自分のこと(気持ち)を自分の言葉で表す、人と心を通わせる言動
- 【多様性】…相手の多様性を認める(人権・同和教育、国際理解、インクルーシブ、LGBTQ+、SDGs…)、多様な見方・考え方、情報活用能力、情報リテラシー

― [めざす授業像] **学びがいのある授業** ―

- 「主体的・対話的で深い学び」の日常化による学力保障をめざす
- 基礎的・基本的な内容を確実に身につけさせ、個性伸長の基礎づくりを図る授業
- 自ら学ぶ目標を定め、主体的な学習活動の方法を身につけさせる授業
- 交流活動(対話や議論)等を通じて、自分の考えを根拠をもとに伝えとともに、他者の考えを理解し、自分の考えを深めたり、集団としての考えを発展させる授業
- 体験的な学習や問題解決的な学習により、学習の喜びや成就感を味わわせる授業
- ICTの効果的活用とユニバーサルデザインの考えに基づいた授業

― [めざす教師像] **信頼される教師** ―

- 公教育に携わる者としての使命感をもち、常に自己研鑽を積み、専門職としての確かな資質や能力を高め、他から信頼される教師
- 協業・協働を重んじ、進んで研究・研修し互いに研鑽し合える教師
- 生徒の可能性を信じ、自ら自己改革を求めながら生徒とともに伸びる教師
- 生徒とともに苦しみや喜びを共有できる豊かな感性をもち、心身ともに健康で明朗な教師
- 被差別側のいたみを共有し、人権問題の課題解決に向けて実践する教師
- 危機管理意識をもち、全職員で共通理解・共通実践をすすめる教師

― [めざす学校像] **力のある学校、Well-being(ウエルビーイング)な学校** ―

☆ 「力のある学校」をめざして…大切にしたい8つの要素

- ① **【チームワーク】** 気持ちのそろった**教職員集団**
  - ・ チーム力を引き出すリーダーシップ ・ 信頼感にもとづくチームワーク
  - ・ 学び合い育ち合う同僚性
- ② **【共通のビジョン】** 戦略的で柔軟な**学校運営**
  - ・ ビジョンと目標の共有 ・ 柔軟で機動性に富んだ組織力
- ③ **【仲間づくり】** 豊かなつながりを生み出す**生徒指導**
  - ・ 一致した方針のもとでのきめ細かな指導
  - ・ 子どもをエンパワーする集団づくり  
子どもをエンパワーする(エンパワメントする)とは、「自らの内なる力に気づいてそれを引き出していく」ということ
- ④ **【授業づくり】** すべての子どもの学びを支える**学習指導**
  - ・ 多様な学びを促進する授業づくり ・ 基礎学力定着のためのシステム
- ⑤ **【地域との連携】** ともに育つ**地域・校種間連携**
  - ・ 多様な資源を生かした地域連携 ・ 明確な目的をもった校種間連携
- ⑥ **【生活・学習習慣(家庭との連携)】** 双方向的な**家庭とのかかわり**
  - ・ 家庭とのパートナーシップの推進 ・ 学習習慣の形成を促す働きかけ
- ⑦ **【快適な教室(雰囲気)】** 〈掲示物・作品など〉安心して学べる**学校環境**
  - ・ 安全で規律のある雰囲気 ・ 学ぶ意欲を引き出す学習環境
- ⑧ **【特色ある学校】** 前向きで活動的な**学校文化**
  - ・ 誇りと責任感にねざす学校風土 ・ 可能性をのばす幅広い教育活動

[参考資料：志水宏吉／スクールバスモデル・2007(H19)年 より]

キーワード	【チームワーク】	【共通のビジョン】	【仲間づくり】	【授業づくり】
	【地域との連携】	【生活・学習習慣(家庭との連携)】		
	【快適な教室(雰囲気)】	【特色ある学校】		

#### 4 本校経営の基本方針

かけがえのない存在である生徒一人一人を大切に、個々の生徒の自己実現を支援する教育に努めるとともに、教育目標を達成するため、教育課程の編成及び学年・学級経営を具体化し、協動的な職員体制により諸教育活動を推進する。

- (1) 教職員同士の学び合いを通して教職員間のチーム体制を構築し、そのチーム活動を通して個々の教職員の専門性を高め、学校の組織的教育力の向上を図る。
  - 教育実践の質は、教職員間の関係の質→思考・判断の質→行動の質→教育の成果(結果)という循環サイクルの中で高まる。この循環サイクルを効果的に稼働させる仕組みを創りだしていく。その役割を担っているのが、学年、教科、校務分掌上の各種委員会といったチームであり、そこで行われる「チーム学習会議」となる。「チーム学習会議」を計画的に位置づけながら、チームが組織の課題を学習することを通して、チームメンバー各人の専門的力量を向上させていく。「チーム学習会議」では、共同思考・共同学習を展開し、そのプロセスの中で個々の教職員が有する知識や経験、スキル等を他の教職員が共有する場としていく。
- (2) 生徒たちに知・徳・体にわたる「生きる力」を育むことを目指し、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から特色ある教育課程の編成と実施に努める。
  - 教科等ごとの枠の中だけではなく、教育課程全体を通じてめざす学校の教育目標の実現に向けた各教科等の位置づけを踏まえ、教科等横断的な視点をもってねらいを具体化したり、他の教科等における指導との関連づけを図りながら、幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育むことをめざしていく。
- (3) 人権・同和教育の理念と視点に基づき、福岡県人権教育推進プラン及び指導の手引きを活用し、また小郡中学校『いじめ防止基本方針』に則り、全領域での人権・同和教育の深化・充実に努める。
  - 全教育活動を通じて、自分を大切にするとともに他の人をも大切にす取組をすすめる。特に、道徳科の時間を要とし、豊かな人間関係を築く素地づくりのため、また規範意識の向上のため、すべての教育活動において道徳教育を推進する。
  - いじめ・不登校における生徒への支援をはじめ、心の居場所を求めて悩む生徒への丁寧な支援を重視した効果のある仲間づくりや集団づくりを実践していく。
- (4) 生徒・保護者の信頼に応えるため、また実践的指導力を高めるため、教育に関する新しい情報や動向を収集し、計画的・組織的な職員研修に努める。
  - 校内研修の充実およびキャリアアップ講座、研究発表会、教育研究所委託研究など、校外での研修へ積極的に参加する。また、OJTや校内研修等を活用した教職員の職能向上および新教員育成指標に基づく人材育成をすすめる。
- (5) 学校を内・外に開き、家庭・地域との連携を密にし、協力して生徒の教育にあたる。
  - 小学校との連携を深める。(合同研修会、いじめ・不登校の情報交換、各種行事への参加)
  - 学校運営協議会の充実を図るとともに、「まちづくり」連絡協議会など、地域の関係各機関と連携を密にし、協力関係の強化に努める。
- (6) 施設・設備の充実・改善を図りながら、活力ある教育環境の創造に努める。
  - 生徒が学習しやすい、活動しやすい環境づくりに努める。
- (7) 効果的な教育活動を行うことができるように、学校における業務改善等に関する取組を積極的に進め、労働環境の整備に努める。(働き方改革の推進)
  - 校内安全衛生委員会の活性化を図るとともに、学校や教職員自らが業務の範囲や進め方について、問題意識をもち、見直す意識をもち、教職員間で議論・共有し、役割遂行のための手段・方法・体制等を再構築していく。
  - 部活動に関しては、共通の目標達成に向けて互いに切磋琢磨する中で、社会性を育むと同時に自己実現を図ることをめざす。また、『小郡市部活動の在り方に関する指針』に則り、活動方針および活動計画を明確にし、合理的でかつ効率的・効果的な活動を図る。また、学校部活動の地域連携・地域移行に関しては、市の動向を注視しながら丁寧に対応していく。

## 5 本校経営の重点

### (1) 生徒の実態(成果と課題)

#### ① 学力

- 学力調査結果は県平均を若干上回り、持続的な学力向上が見られる
- 正答率3割未満の生徒に対する基礎・基本の定着に力を入れる必要がある
- 「人と関わり粘り強く課題を追究し発信する力」「自ら判断する力」「見通しをもって計画的に取り組む力」「挑戦する力」等の非認知能力を育てる必要がある

#### ② 豊かな心

- 「B主として人との関わりに関する」項目は高い数値となっている
- 「C主として集団や社会との関わりに関する」項目に力を入れる必要がある
- レジリエンス〈精神的回復力・復元力・耐久力〉を育てる必要がある

#### ③ 体力

- 概ね規則正しい生活ができている(朝食を毎日食べている、睡眠時間の確保)
- さらなる基礎体力の向上が必要、特に「握力」「長座体前屈」「持久走」が課題
- 健康と安全を自らで守る力(自己健康管理能力)の育成が必要である

### (2) 教育課題

EQ (Emotional Intelligence Quotient) を高める  
「自分や他者の感情を知覚した上でコントロールし、利用できる力」の育成

- ・正答率3割未満の生徒に対する基礎・基本の定着
- ・自学自習(家庭学習)の定着、生徒自らのICT(タブレット)活用
- ・自他を大切にし、人とつながるための豊かな人権感覚の育成
- ・不登校生徒及び兆候生徒(サポート教室登校生徒)の解消
- ・自分の課題を明確にし、学習や運動に粘り強く取り組む態度の育成

### (3) 経営課題

「気づき、考え、行動する」チームに  
「教職員と教職員、教職員と生徒、教職員と保護者・地域がつながる」

- ・人材育成(特に生徒指導力の向上、信頼される教師)、協働的運営体制の強化
- ・不登校の解消、いじめ・不登校の未然防止(効果のある「集団づくり」の取組)
- ・校内研修会の充実(人権・同和教育、授業研究、ICTの効果的活用)
- ・保護者や地域から信頼される学校づくり、小中連携強化、学校運営協議会の充実
- ・教職員のワーク・ライフ・バランスのとれた生活の実現(負担感軽減、モチベーション向上、子どもと向き合う時間の確保)〈働き方改革の推進〉

### (4) 重点目標【生徒エージェンシーの獲得】

**自分で考え、判断し、責任をもって行動できる生徒〈考動〉〈協働〉**

- すすんで学習に向かう生徒〈学び続ける力の獲得〉
- 課題を自分ごと化し、その解決に向けて粘り強く取り組む生徒  
〈新たな課題に対応できる力の獲得〉
- 自分の行動や感情をコントロールし、集団の一員として協働していく生徒  
〈協働的に課題を解決できる力の獲得〉

### (5) 経営の最重点項目

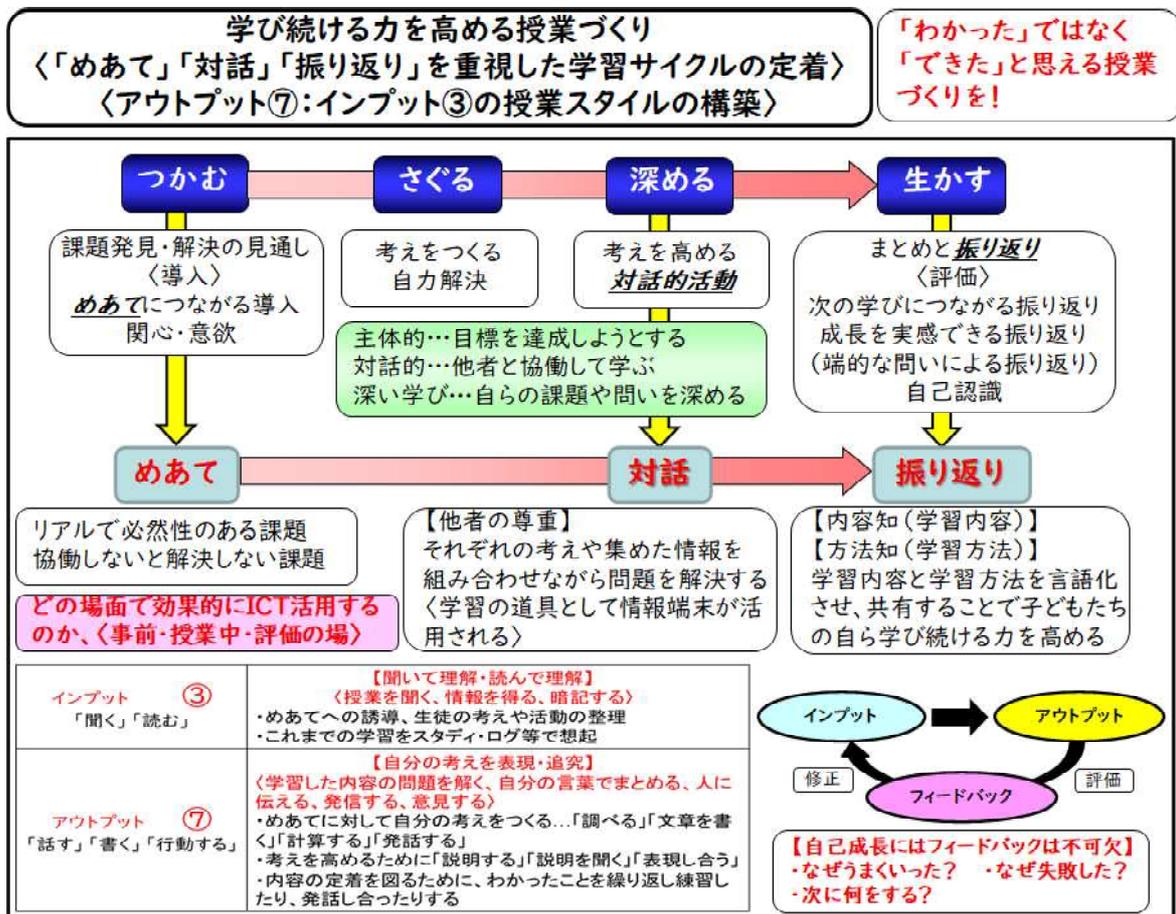
上記の経営課題・教育課題より、**【誰ひとり取り残さない、個に応じた指導】【教職員自らの自己改革、指導力向上】**をキーワードとして、次の3点を重点に取り組む。

- ① 確かな学力の向上〈生徒の見取りを重視し、学び続ける力を高める授業づくり〉
- ② 豊かな心と健やかな体の育成〈自分や他者を大切にする心豊かな集団づくり〉
- ③ 保護者・地域から信頼される学校づくり〈連携して子どもを育てる環境づくり〉

### (6) 経営の最重点項目達成のための具体的な取組

**【確かな学力の向上】**〈生徒の見取りを重視し、学び続ける力を高める授業づくり〉  
※課題意識の重視と学びの意義・価値の実感、考えを表現し合う活動・書く活動の重視、アウトプットとインプットの効果的活用、ICTの活用、EQの向上  
※低位層(正答率3割以下)個々の生徒の「伸び」や「定着状況」の重視

- 基礎・基本の徹底と人権・同和教育の視点に立った「よくわかる授業づくり」に努める（誰ひとり取り残さない学力保障・進路保障）
- 学び続ける力を高める授業づくり…図参照
  - 「めあて」「対話」「振り返り」を重視した学習サイクルの定着をめざす
  - ※目的や課題[めあて]を重視し、自分の考えをつくり、考えを高める[対話]活動で課題の解決ができるようにする学びの実現と「何ができるようになったか」[振り返り]を大切にする授業（課題意識の重視と学びの意義・価値の実感）
  - ※「情報を取り出す力」「条件や情報を関連づけてまとめる力」「根拠と理由を明確にして主張する力」、「めあて達成に向けた学びを評価する力」の育成（考えを表現し合う活動・書く活動の重視）
  - ※アウトプット(自分の考えを表現・追究)：インプット(聞いて理解)＝7：3の授業スタイルの構築をめざす。その際、フィードバック(見直し、反省、改善、方向修正、原因究明)も丁寧に位置付けていく（アウトプットとインプットの効果的活用）
  - ※主体的・対話的で深い学びを保障するために、1人1台タブレット端末の効果的活用を進め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。生徒の可能性を引き出すにあたっては、「個別最適な学び」によって個々の資質・能力の育成を図り、「協働的な学び」によってお互いの違いを認め合い、学び合うという相乗効果を生み出す学びにつなげる（ICTの効果的活用）
  - ※EQについては、全教科・全領域で高めていく。自分や他者の感情を察知して理解する、自分の感情をコントロールするといった心に関する識別管理能力は、対人関係や対人能力を良好に発展させる基礎能力あることを意識して、一人一人の生徒を見取っていく（EQの向上）
  - ・「工夫する」「手順を考える」「試行錯誤する」「没頭する」体験や生徒同士で「相談する」「頼る」「頼られる」体験を仕組んでいく（「やればできる」という自信、「頼りにされている」という実感をもたせていく）





考え、行動する』主体的・実践的な生徒の心に響く人権・部落問題学習の創造など、全教職員が一体となり、共通理解のもと、すべての教育活動を通じ、人権・同和教育を推進していく

- ・教職員が自ら人権意識と指導力を高める研修の工夫と部落差別解消推進法・県条例などの法令等の制定背景を踏まえての保護者・地域への啓発推進
- ・部落問題、個別の人権課題、「賤称語」や「ガイジ発言」などの解決をめざす授業づくりの充実…「協力・参加・体験」を重視した指導方法の追究と情報化の進展を踏まえた人権・同和教育の推進(差別情報に生徒が惑わされない取組)
- ともに学びともに育つための特別支援教育を推進する(情報交換や研修の充実)
- ・インクルーシブ教育システム構築のための学校体制整備…安全・安心かつ効果的に学べる教育環境の整備、専門性向上と支援体制の整備・充実
- 個々の能力や適性に応じた啓発的・実践的なキャリア教育の充実に努める  
また、キャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、生徒自身の変容や成長を自己評価させ、(キャリア・パスポートの活用等)系統的な指導の工夫に努める
- 「向上心、個性の伸長(A-3)」「真理の探究、創造(A-5)」及び「社会参画、公共の精神(C-12)」「勤労(C-13)」「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度(C-16)」の内容項目については、道徳科の時間において重点化を図り、教科や特別活動、学校行事等と関連させて指導を充実させる
- 体力に関しては、全教職員が体力向上への取組の意識を高め、体力向上コーディネーター(保健体育科教師)のリーダーシップのもと、組織的な取組を推進する

【保護者・地域から信頼される学校づくり】〈連携して子どもを育てる環境づくり〉

※〈凡事徹底〉…基本的生活習慣が身についた生徒の育成

※子どもが主体となった「共学協働」「地域貢献」の視点に立った取組の推進

※小中連携強化、家庭・地域への発信・啓発強化、学校運営協議会の充実

- 「時を守り 場を整え 礼を尽くす」、「当たり前のことが当たり前ができる」〈凡事徹底〉等の基本的生活習慣が身についた生徒の育成に努める。また、家庭との連携による基本的生活習慣の確立を目指す。
  - ・自分から元気に挨拶する ・地域の方々に挨拶する ・掃除で汗をかく
  - ・遅刻しない ・自らゴミを拾い学校をきれいにする ・履き物を揃える
  - ・「ハイ！」と返事ができる ・家庭学習の習慣化 等の徹底
- 小中連携強化…中一ギャップ解消に向けた取組、小中合同研修の充実に努める
- 学校だより・HP・学年通信等を通して、情報を積極的に発信し、保護者・地域住民からの理解と参画を得られる開かれた学校づくりに努める(発信・啓発強化)
- 関係団体との連携強化し、学校支援ボランティア等、地域教育力の活用を図る
- 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)は熟議を位置付けて充実させ、組織的・継続的な教育活動の改善を図る…子どもの命と安全を守る教育や体制づくりの協議、地域連携・協働した防犯や防災のための教育充実及び体制整備を進める
- 生徒・保護者・教職員のアンケートをもとにして学校評価を実施し、教育活動の検証と改善を図る
- 生徒が地域の一員であることを意識させ、他の人や地域の安全に貢献できる能力を育成する…子どもが主体となった「共学協働」「地域貢献」の視点に立った取組を進めることで、生徒も地域も潤うという発想を大事にする
  - ・ふるさとクリーン活動の充実、地域行事等への積極的な参加を推奨する
  - ・防災意識の高揚と地域とともに安全な環境の整備を進める(安全マップの活用)
- P T A活動や地域行事等への積極的な参加による円滑な関係を構築する(教職員)
- 校内環境衛生委員会の充実による「働き方改革」を積極的に推進し、地域・保護者の理解と協力を得る

「チーム小郡中」実現のための努力点（「気づき動く教師」「信頼される教師」）  
～教職員の協働運営体制の強化および人材育成（指導力向上）のために～

○ 学校経営参画意識と人材育成（指導力向上）

「チーム小郡中」を常に意識し、チームで取り組む動きを報告、連絡、相談、調整、指導、支援、援助により校務の遂行を教職員一人一人、それぞれに得意不得意な分野や興味・関心の違いがある。そのような中、組織として課題に対応するためには教師同士が相互補完的な関係を築くことで解決の糸口が見えてくる。個々の強みや適性等を生かしながら、人材育成（指導力向上）をめざす。『見える化』『組織意識』『理想的な教育実践の追求』

○ 「気づく」感性と意識（生徒の変化、環境の変化等）

気づいたら動く、気になったら動く、動いて知る、知ったら共有し全員でかかわる家庭との連携（電話でなく家庭訪問の重要性、信頼関係の構築）、家庭への支援家庭への啓発を一人一人の生徒の「生命と人格の尊重」を優先

○ 危機意識（未然防止、予防の視点で）

危機意識を持って、事後対応ではなく、予防の視点・積極的生徒指導の視点から生徒指導にあたる（想定外は通用しなくなっている）

○ 専門職（プロ）としての自覚と使命感に基づき、研修を積みながら校務の遂行を

時代の変化に対応し子どもに寄り添う教育の実現のためには、我々も常に指導力の向上を目指していかなければならない。授業力向上の研修はもちろん、予防の視点からも様々な問題（いじめ、不登校、保護者対応等）について、「問題に対するとらえ方・見方のポイント、アンテナの張り方」等の積極的な研修への参加を

○ 望ましい「隠れたカリキュラム」の実現を（雰囲気づくり、言動、態度等）

教職員間、児童生徒間、教職員と児童生徒間の人間関係や、学校・学級の全体としての雰囲気などは、まさに学校教育における人権教育の基盤をなすもの

『隠れたカリキュラム』…教師が意図も意識もせず、教え続けている教育内容  
教師の日常の声かけや表情・態度から何かを感じ取って、子どもたちは自分の振る舞い方を選択する…『隠れたカリキュラム』の総体は学校文化や校風を形成する  
「生徒は教師の背中を見て育つ」…我々教職員の言動や行動は重要となる

※明るい挨拶や10分清掃（無言清掃）時間など、生徒とともに活動することは基本

☆ 特に大切にしたいことは、教職員が自律的・自主的・協働的に行動するということである。そのような教職員の姿は、生徒たちにとっての生きたモデルになるからだ。そこで、協働性・心理的安全性を確保した職場環境づくりを土台に、多様な教職員同士の関わり合いを軸にし、「経験を振り返ることを基礎とした学び」「他者との対話から得られる学び」を組織的にすすめていきたい。

自分の働く学校は自分がつくるという『人のせいにしない学校づくり』を意識して、子どもを育てる学校ではなく、『子どもが育つ学校』をめざしていきたい。

☆ 綱紀の厳正な保持と服務規律の確保について

職務の執行の公正さに対する市民等からの疑惑や不信を招くことがないよう、率先垂範して綱紀の厳正な保持と服務規律の確保を図っていく。本校においても定期的に研修や不祥事防止のためのチェックリスト等を実施し、自らを振り返っていく

- ・交通事故および飲酒運転の防止
- ・体罰の防止
- ・わいせつ行為の防止
- ・薬物乱用の防止
- ・個人情報の適切な取扱
- ・その他信用失墜行為の防止
- ・学校徴収金の適切な管理
- ・利害関係者からの贈答品の收受等の禁止

6 学校経営の全体構想図

